

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 23 年度 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	倉知 慎	会員番号	0023728
申請者の所属・職名	東京大学大学院医学系研究科分子予防医学・助教		
出席会議名	米国免疫学会年次学術集会 (AAI2011)		
発表論文タイトル	Chemokine receptor CXCR3 facilitates CD8 ⁺ T cell differentiation into short-lived effector cells leading to memory degeneration		

実施結果:

2011年5月13日から17日まで米国サンフランシスコにて開催された AAI2011 に参加し、現在投稿審査中の研究成果をポスター発表した。今回は展示会場スペースが広く確保できるという理由があっただけでなく、全てのポスターを会期中掲示しつづけるというスタイルであり、発表 duty 日以外にも多くの研究者が自分のポスターを見に来てくれたことが印象的である。

AAI 年次学術集会ではポスドク向けに種々のキャリアディベロップメントセッションが開催されており、単に最新の科学知見に接することができるだけでなく、アカデミア研究者を目指す自分にとって自己啓発を行う絶好の機会となった。特に論文の記述方法やその後の審査についてのセミナー、および PI を目指す層向けにグラントの書き方や交渉の仕方を体系的に示してくれたセミナーは、類似のものが日本では経験できないだけに大変参考になった。

日本では末梢における（感染時の）抗原特異的 T 細胞応答に関する研究者が少なく、なかなか情報交換の機会が乏しいのが現実であるが、AAI では会期中を通じて必ずいずれかのセッションで T 細胞応答に関する発表があり、大いに刺激を受けた。特に T 細胞応答における代謝経路に関する研究が隆盛を極めていることが実感できた。

今秋より米国への留学を予定している自分にとって、1 世紀以上に渡り米国のアジア玄関口であるサンフランシスコの学会に参加できたことは、なによりも良い体験となった。2 世代以上前の研究者は船でこのサンフランシスコに到着して米国に初めて接したであろう。偉大な先輩研究者方と同じような大成果が出せるとは考えにくいけれども、同じ入り口を辿体験できたことは自分の中に小さな礎ができた気がする。

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に選んでいただき、本当にありがとうございました。岸本先生をはじめ日本免疫学会役員の先生方、事務局の方に厚くお礼申し上げます。